

# 市から届いた区画整理前提の 「アンケート」にご注意！

寄せられた 声！声！声！

市議会でも問題に

- 減歩や清算金や家屋移転の自己負担分や仮住まい引っ越し、区画整理自体に反対なのに、太陽光パネルや風力発電なんか、とんでもない。それに、ただで付けてくれるわけじゃないのに。
- 平成4年、区画整理の説明も区画整理以外の選択肢もない誘導的アンケートで合意をねつ造した羽村市。今回も、どう答えても区画整理に結びつけ、住民を利用することしか考えていない。
- 「稲荷緑地を緑に戻す」と書いてあるが、我々の土地や清算金を奪って緑に戻すとは、どこまで住民に犠牲を強いるのか。庭や生産緑地が減歩され地域の30%が道路になるこの区画整理自体が環境破壊だ。
- 「調査は無記名とし」とあるが、封筒に地権者番号が書かれている。住民を欺く行為だ。番号を切り取り、区画整理反対とだけ書いて出す。
- 「現状のままでよい」という選択肢がない。誘導的だ。その他の欄に「現状のままが環境を守ることになる」と書いて出す。

## 権利者の合意が得られない・・・ 市が考えたことは・・・「環境配慮」で ごまかし 区画整理を大宣伝

- なんで、市民 1500 人にも西口の区画整理を前提にしたこのアンケートをやるのか。区画整理は西口権利者の財産に関わることだ。合意が得られていないのに、第三者が区画整理で「エコ街」にしると言ったら人権問題だ。

市の案内文にあるように、  
このアンケートは区画整理をやるためのものです。  
○を付けて提出したら、区画整理  
推進に利用されることになります。

- 1、市へ返却希望の方は、反対の会の世話人や地区委員、審議委員に連絡または、お持ち寄りください。
- 2、「区画整理反対」の意思表示をしましょう。

## —9月市議会報告 (要約、抜粋)—

### 山崎陽一議員 区画整理白紙撤回 第14弾

インフラの完備した住み慣れた環境にある 1000 戸の家を取り壊し、移転するという計画の発表から 15 年。関係権利者は眠れぬ夜を過ごしている。行政に恨みの言葉を残し故郷を去った住民もいる。既に地域の人口は 1 割も減った。この計画を撤回し、住民と行政が話し合う新たな「まちづくり」に歩み出すべきだ。

市は補助金を得るべく区画整理で新たな土地利用計画を検討中と聞く。

山崎「“先導的都市環境総合支援事業”の素案に羽村駅西口地区に浮かぶ緑の街並み発電所、太陽光発電、風力、振動発電等とある。また、環境対策設備を配置し、施設を説明する解説者が待機するコースプランを駅前周辺の建物に整備すると書いてあるが、我々が見学されるのか？」

参事「国の補助金を得るために、市の素案を部内関係職員で練っている。権利者にアンケートを行い、無作為で 1500 名くらいの市民に協力してもらい、来年の 3 月までにはパブリックコメントを掛ける」

山崎「(アンケート等を) いくらで委託したのか？」

参事「計画策定経費は、当初 1600 万円で、契約は 1470 万円」

#### 反対の会コメント

補助金のために、多くの住民が反対している区画整理で、環境都市にするという計画を押しつけるのは、権利者を馬鹿にした勝手なやり方だ。また、その計画や調査に1000万円以上の税金を使うというばかげた話だ。

# 市は換地設計2次案を今年の早いうちに発表と言っていたが、市議会で来年と答弁

山崎「“まちなみ”33号にある、街路変更概要や宅地造成イメージの説明は、いつどのように開かれるのか？」

市長「年内に予定している審議会への諮問の時期に合わせ、意見要望書を出した人への回答を行うとともに、街路変更の概要や宅地造成イメージ等の説明会の開催を考えている」

山崎「交付団体に転じた今、長期の財政見通しをたて、住民に示すべき」

市長「交付団体になったので、改めて全職員に対し財政危機を克服していくための意識改革と一層の改善努力を通過した。また緊急経済対策の策定に取り組み一層安定的で持続可能な財政基盤を確立していく」

## 反対の会コメント

意識改革が必要なのは、市長だ。何の事情があるのか。街を大改造するほどの造成や家屋移転に莫大な事業費のかかる区画整理に異常なほどに執着している。住民から見れば迷惑極まりない。市長は一体どこを向いているのか???

## 門間淑子議員 **区画整理は凍結すべき！**

「広報はむら」には「交付団体になったからと言って赤字になったということではない」と書いてあるが、支出に対して収入が不足している。家庭で言えば、貯金を崩したり、親元から仕送りをしてもらって暮らしていく状態。これは市民感覚で言えば赤字の状態だ。こうした中で、市は交付団体に落ちたことに対して新規の事業は控えるが、区画整理はしっかりやっていくんだという。

日野の市長は将来負担を残さないように、身の丈に合った財政運営をずると言っていた。私はやはり区画整理はこういう時には凍結すべきと思う。

## 反対の会コメント

市民や住民がやってほしいという事業なら財政難でも何とかするというのは分かるが、多くの住民が反対する事業を福祉や教育に必要な予算を削ってまで強行しようとする市長の事情とは何か???

区画整理手法は広い農地や空き地の地域をやるのに向いている。西口のように、既にびっしり家が建ち並ぶ、歴史のある街に用いるには大きな問題が生じる。街区に家を納める為に 1000 戸の家をひっばったり取り壊して建て直す必要がある。

広い道路を造る為に平均 22 %の土地を無償で取り上げ、土地を出せない人からは清算金を出してもらおう。その清算金もいくらになるのか、移転補償金も工事の実施期間も後でなければ分からない。後で分かった時に、いやだと言っても遅いとなる。

大規模に街を造り替えるために 355 億円という巨額な税金を投入。**あまりにも大きな住民負担。あまりにも巨額な税金投入。**

多くの市民が中止や見直しをの声を上げ続けているのは当然だ。抜本的な見直しを図り、住民の合意が得られる計画に切り替えること。財政が厳しい中、一時凍結し、大もとから事業をやり直すことを求める。

**鈴木**「権利者からの意見書 580 人・871 件のうち、何%が反映されたか？ 1200 名中 580 人からこの設計図はダメと言われたら、さすがに街づくりは出来ない。

2 期 3 回の審議会資料で、意見を反映した○、反映できない×と出ている。足し算して何件、何%が反映されたか分からないのか？」

**参事**「数字で表すという認識は持っていない」

**鈴木**「数字で出したら、西口のエリアを区画整理する難しさが浮き彫りになるため、出していないのではないかと。市は 1 億円以上かけて設計図を練り直ししているが、あの西口を区画整理方式で整備しようとした出発点がおかしかった。そこを見直す必要がある。

稲城市百村では、12.3ha、170 人中 40 人が反対し、市がアンケートを行い区画整理を地区計画に変更した。稲城市の担当者は体力の大きくない自治体は地元の人の応援がないと何も進まない。また、事業が長期化すれば人件費がかさみ、相当のボリュームのお金がかかる。下手するとお金をかけたが結局事業は出来なかったということになりかねない。これからの“まちづくり”は住民の協力が不可欠と言っていた」